



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

7・8月の行事予定

Calendar table with columns for month, day, event, school time, and other details.

修行の身

国語科 山田 小百合

ちょうどこれを書くタイミングで、三年生が「社会が壊れる時―知性的であるとはどういうことか」という鷺田清一の評論に入った。そこで、私も「知性的」であるとはどういふことかについてちよつと考えてみた。最近よく読んでいるからかも知れないが、哲学者の鶴見俊輔さんなんかは知れば知るほど、なんて「知性的」で「素敵」な人か、と思う。私の感動が伝わるかわからないけれど、ちよつと引用してみよう。

(私の息子が)愛読している『生きる』の『意味』の著者高史明の息子岡真史が自殺した。『生きる』の『意味』を読んだのは、私の息子が小学四年生のときで、岡真史(十四歳)の自殺は、その後二年たつて彼が小学校六年生くらいのときだったろう。彼は動揺して私のところに来て、「おとうさん、自殺をしてもいいのかわかるか?」とたずねた。私の答は、「していい。二つのときだ。戦争にひきだされて敵を殺せと命令された場合、敵を殺したくなかったら、自殺したらいい。君は男だから、女を強姦したくなかったら、その前に首をくくって死んだらいい。」

そのとき他に、彼と男女のことについてはなしたことがない。私は自分で、男女のことについて、こうしたらいいという自信をもっていないからだ(『教育再定義』の試み)。

えている。これは普段から深く思考している人しかできない所業だ。そしてこの文章を読んだとき、数年前に授業で扱ったティム・オプライエンの「待ち伏せ」という作品も頭をよぎった。ベトナム戦争に従軍し、本当は殺す意志がなかったにもかかわらず、無意識の恐怖に身体が勝手に反応して手榴弾を投げてしまふ、一人の無辜の兵を殺してしまふた私が、帰還して平和な日常を送る中でも繰り返すその場面を想起し、そのときの自身の不思議について考え続ける作品で、その外枠として、幼い娘に「お父さんは人を殺したことがあるか」と尋ねられ、即答できなかったことが描かれている。自身でもまだ整理がついていないその時の自身や戦争の真相を、一生をかけ、小説という形で模索することで、娘に、世に伝えようとしていて感じられる、とても印象深い作品であった。(村上春樹訳がまたよい。二作の共通点は、どちらも自身の身体を通して、実感として深く思考し、紛れもなく自身の言葉で表現しているところだ。それができるのが「知性的」な人なのではないかと思う。



個人的には思う。鷺田流に言うなら、「複雑さや煩雑さに耐えうる力」が「知性」である。そういうわけで可能な限り複雑なものを複雑なまま受容できるように対話し、私は今日も文学や哲学や芸術と好んで対話し、多少なりとも「知性」を磨こうともがく修行の身である。

部活動生集会

三年生が引退し、新チームに移行する部活動が増えた六月八日、部活動生集会がありました。小島教頭先生の講話、佐伯先生の諸注意に続き、富岡先生からは、「誰かのためにつながる部活動を」という呼びかけがありました。

「学習の軌跡」より

本校生は「学習の軌跡」(教科別学習時間、合計時間、睡眠時間、一日の反省等)を日々記入していますが、今回その中の「一日の反省」を一部、紹介します。生徒たちのつぶやきから、日々頑張っている様子をうかがうことができます。

九州大会、全国大会出場おめでとう

- List of sports events and winners: 全九州高等学校空手道競技大会, 全国高等学校総合体育大会空手道競技大会, etc.

の点数が予想以上に良くなったので、もっと勉強したい。「明日の予習と小テストの準備が大変だった。できるだけ土日に予習貯めしておきたい。」九時から勉強を始めたが、途中で寝てしまった。何か工夫できるように進めていこう。「久しぶりにすっかり寝れた。やはりスマホをベッドに持ち込むのは良くない。今日は昨日の試合で得た課題を意識して部活をできた。今日は体育のバレーでサーブが入ってすごく嬉しかったです。」

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。